様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２４ 日現在

機関番号：７４３０６
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2023
課題番号：１９Ｋ０１０２７

研究課題名（和文）五一広場東漢簡牘よりみた後漢時代の在地社会

研究課題名（英文）The local society in the Eastern Han Dynasty: Based on the Eastern Han Wooden and Bamboo Slips from Wuyi Square

研究代表者
飯田　祥子（Iida, Sachiko）

公益財団法人古代学協会・その他部局等・客員研究員

研究者番号：３０７６９２１１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：　五一広場東漢簡牘を読解し、訳注を公開し（史料読解）、整理検討によって独自の書式や資料群としての性格を明らかにした（史料研究）。読解と史料研究から得た知見を基礎として、後漢時代の政策と在地社会のあり方を考察した。後漢中期において、中央政府の地方に対する規制力は依然として大きい。在地社会の流動性は高いが、それも中央の政策の影響下にあり、地方官府は在地社会に対する管理統制を一定程度行っていることを明らかにした（後漢中期に対する理解）。中国史の中で独自性を持つ時期として、後漢史を考察する成果を得た（通時的理解）。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　後漢史研究は、同時代史料に依拠した検討が困難であった。本研究は新出土の行政文書五一広場東漢簡牘を読解し、これによって後漢時代史を考察した。中期における在地社会に対する中央の影響・規制力、および秦から三国時代への行政制度と社会のあり方の変遷の一端を明らかにした。
　web会議システムを利用し、海外からの参加者を含む研究者との間で継続的に輪読会を実施した。読解の成果は、まず訳注稿「暫定版」として代表者が開設したwebページ上で公開し、その後、改訂を経てweb公開している学術雑誌に掲載した。中国古代出土行政文書史料に対する日本語訳注としては最大規模であり、かつオープンアクセスを実現した。

研究成果の概要（英文）：We revealed the unique writing style and the character as the document group by reading and comprehending the Eastern Han Wooden and Bamboo Slips from Wuyi Square,publishing the Annotated Translation of the documents and organizing and considering ones.Based on the findings from reading,comprehending and studying the historical records,we studied the policy of the Eastern Han Dynasty and the way of the local society.
In the Middle Eastern Han Dynasty, the central government still had the high regulatory power over the local society.The migration frequently occurred in the local society which disclosed the fact that the government had no stringent regulation to the migration while the local government had registered the residents and the migrants.This is how we had the result of studying the history of the Eastern Han Dynasty as the unique period in the Chinese history.

研究分野：中国古代史

キーワード：後漢　五一広場東漢簡牘　木簡　行政文書　文書行政　郡県制　長沙郡臨湘県　書写材料

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

(1)後漢時代史研究：後漢時代〔西暦後 25～220 年〕とは、前 3 世紀に形成した秦・漢古代統一国家が解体され、後 3 世紀から 6 世紀におよぶ長い分裂政権時代へとさしかかる時期にあたり、前近代中国における国家体制の転換期の一つである。そのため、国家と社会のあり方には変質が生じていると考えられ、とりわけ中央政府の規制力の低下、および地方社会における在地有力者層の成長が注目されてきた。

(2)五一広場東漢簡牘の出現：しかしながら、従来の後漢史研究は、主に 5 世紀に編纂された歴史書『後漢書』に基づき、後代の歴史観の影響が避けがたいという問題が存在した。中国古代史研究において、前世紀以来、出土資料が既存の歴史認識を塗り替えてきたが、後漢時代に関しては出土資料に恵まれず、同時代史料に依拠して実証的に理解することが困難であった。代表者は、この問題を解消に導く史料として、二〇一〇年に湖南省長沙市で出土した五一広場東漢簡牘（以下、五一簡と略称）に注目した。本資料群は、後漢中期〔後 1 世紀末～2 世紀初〕の県（基層行政機構）で作成された行政文書であり、民間、あるいは官吏と民の間のトラブルに関する報告書を多く含む。そのため、国家と社会の交点に位置する民政の実態を示す同時代史料として価値が高い。

２．研究の目的

本研究は、五一簡に反映される地方行政機構における民政のあり方から、後漢中期における国家の政策、および社会動態を明らかにする。

(1)五一簡を理解する：五一簡は出土行政文書であるため、読解には一定の困難をともなう。また、五一簡は情報の伝達に関わる狭義の文書の占める割合が高いという特徴を持つため、簿籍等を主体とする資料群とは異なり、一点一点を読み込むことが必要である。それゆえ、史料の正確な読解を実現すること自体が、課題の一つとなる。読解により、資料群の性格を分析し、各種文書の書式・用語、書写材料・形状上の特色を解明することで、行政文書として正確に理解する。

(2)五一簡から後漢時代史を理解する：五一簡は、臨湘県廷という特定の役所の、特定の部局か文書庫に由来すると考えられるため、性格は自ずと限定的であり、そのままでは一般化しがたい。本研究においては、歴史書から得られる中央の政策や政治の動向、秦漢制度研究の蓄積を視野に入れることで、後漢時代史研究の史料として用い、後漢中期を中国古代・中世における国家と社会の展開の中で理解する。

３．研究の方法

(1)五一簡の理解

①輪読：後漢時代史研究に軸足を置く代表者が、分担者（秦漢時代、および三国時代の簡牘資料を専門とする）等と共同で史料を読解する。輪読会（2020 年度以降、オンラインで実施。月 2 回）では、伝統的な会読スタイルを採用した。代表者・分担者、および研究協力者が担当者となり、個々の簡牘に対するレジュメ（訓読・現代日本語訳・注等からなる）を作成し、参加者全員で簡牘の図版と釈読、担当者のレジュメを検討し、その後の改訂・再検討を通じて簡牘の正確な理解を図った。

②資料情報の整理：テキストや形状情報、内外の研究成果情報を整理して、データベースを作成し、輪読会参加者等と共有した。

③周辺資料情報の把握：出土資料の理解には、前後する時期の、他の資料群の理解が助けとなる。幸い里耶秦簡、岳麓秦簡、走馬楼呉簡は、五一簡に先行して出土・公開され、研究蓄積があるのみならず、専門性の高い研究者コミュニティが存在している。ここから分析の方法を学び、情報の提供をうけることで、五一簡を通時的・客観的に理解するための周辺的かつ不可欠な知見を得た。

④文書書式の理解：行政文書は一定の書式にもとづいて書写される。すでに秦漢時代の行政文書の書式については、研究蓄積が豊富である。その知識を利用し、上記②のデータベースによって、五一簡に特徴的な書式を網羅的・帰納的に分析した。

(2)後漢時代史の理解

五一簡は民政に関わる文書を含むため、中央政府の民政への関心・政策、および中央・地方政府が認識する在地社会のありかたを反映することが期待された。それゆえ、後漢時代の政治・制度に対する理解が求められる。基本史料である歴史書『後漢書』や、先立つ前漢・王莽新王朝期の考察を欠くことはできない。本研究では、文献史料とその研究成果の理解を深めることで、出土資料を国家の政策、及び社会のあり方と関連づける。個別には①流動人口の動向と、地方行政機構による把握のありかた、②地方行政機構官府所属の官吏や、官府間の関係と、それに対する中央政府の統治姿勢を考察することで、中央の指導力を再検討した。

４．研究成果

(1)五一簡の理解：輪読会による読解の成果として訳注稿、代表者・分担者・研究協力者による史料研究の成果として学術論文等を得た。

①史料読解：［長沙市文物考古研究所等編］の整理番号一簡から三二二簡までを読解した。各担当者の作成したレジュメを整理のうえ、訓読・現代日本語訳・所見等からなる訳注とした。［長沙市文物考古研究所等編］による五一簡の公開は途中（約 6800 点中、公開済みは 3700 点）であり、いまだ資料群の全貌を知ることができないため、本研究による訳注は、段階的に深化させつつも、「稿」とするにとどめた。すなわち「訳注稿」の第一段階として、「暫定版」を代表者が作成し管理する web ページ（五一広場東漢簡牘研究会 https://goitinokai.jimdofree.com/）上に掲載し、その後の公開資料の増加と理解の進展をふまえて修正を施し、第二段階の「改訂版」をより安定的な学術媒体に投稿することとした。

なお、中国古代の出土文字資料の日本語訳注は少なくないが、その多くは、思想的著作物や法律文献等、古代人自身の手によって一定の整理編纂がなされたものである。それに対して、五一簡は、行政実務の場で作成・保管・廃棄された行政文書である。行政文書は、一次史料としての価値が高いが、未整理であるため、制度等に関する専門知識をもつ研究者でなければ理解は困難であり、注を附して訳を公開することの価値は高い。本訳注稿は中国古代の行政文書に対する日本語訳注としては最大規模のものである。

i.公開した「暫定版」は 2023 年 3 月末までで 11 編となり、三〇九簡までを収録した（三一〇簡以降も公開準備中である）。

五一広場東漢簡牘研究会「長沙五一広場東漢簡牘訳注稿（一）暫定版」:『壱』一～一二簡

五一広場東漢簡牘研究会「長沙五一広場東漢簡牘訳注稿（二）暫定版」:『壱』一五～四一簡

五一広場東漢簡牘研究会「長沙五一広場東漢簡牘訳注稿（三）暫定版」:『壱』四二～七四簡

五一広場東漢簡牘研究会「長沙五一広場東漢簡牘訳注稿（四）暫定版」:『壱』八〇～八九簡

五一広場東漢簡牘研究会「長沙五一広場東漢簡牘訳注稿（五）暫定版」:『壱』九〇～一〇〇＋一〇一＋一〇二簡

五一広場東漢簡牘研究会「長沙五一広場東漢簡牘訳注稿（六）暫定版」:『壱』一〇三～一二九簡

五一広場東漢簡牘研究会「長沙五一広場東漢簡牘訳注稿（七）暫定版」:『壱』一三三～一七九簡

五一広場東漢簡牘研究会「長沙五一広場東漢簡牘訳注稿（八）暫定版」:『壱』一八九～二一七一＋五七八〇＋二三一簡

五一広場東漢簡牘研究会「長沙五一広場東漢簡牘訳注稿（九）暫定版」:『壱』二三二～二七七簡

五一広場東漢簡牘研究会「長沙五一広場東漢簡牘訳注稿（一〇）暫定版」:『壱』二七九～二九六簡

五一広場東漢簡牘研究会「長沙五一広場東漢簡牘訳注稿（一一）暫定版」:『壱』二九七～三〇九簡

ii.「改訂版」は、出土層ごとに分けて整理修正した。出土第一層に相当する「暫定版」（一）～（六）は、「第一層（上）（中）（下）」として、『立命館文学』に投稿して、査読の上、掲載された（「下」は掲載確定、待刊）。なお、『立命館文学』は、刊行と同時に web 公開を実施しており、オープンアクセスを維持している（第二層出土簡も公開準備中である）

五一広場東漢簡牘研究会（飯田祥子・章瀟逸・角谷常子・藤本航輔・鷲尾祐子）「長沙五一広場東漢簡牘訳注稿 第一層　上（一～七四簡）」

五一広場東漢簡牘研究会（飯田祥子・章瀟逸・角谷常子・藤本航輔・鷲尾祐子）「長沙五一広場東漢簡牘訳注稿 第一層　中（八〇～一〇〇＋一〇一＋一〇二簡）」

五一広場東漢簡牘研究会（飯田祥子・章瀟逸・角谷常子・藤本航輔・鷲尾祐子）「長沙五一広場東漢簡牘訳注稿 第一層　下（一〇三～一二九簡簡）」

②史料研究：五一簡のテキスト・材質・形状・サイズ等を整理し、書式・用語等を分析把握することで、史料そのものの性質を明らかにした。従来、後漢時代は出土文字資料に恵まれてこなかった。かろうじて後漢前期までの木簡が西北地域から出土し、石碑が後漢後期から増加するものの、後漢中期は出土資料の空白期間であった。五一簡はそれを埋めるが、既知の史料の知見だけで理解できるわけではない。中国古代・中世における文書行政制度の変遷を解明するためにも、史料に対する基礎研究が必要であった。本研究に関連する以下の学術論文はそれを実践する。

飯田祥子「五一広場東漢簡牘の上行文書に関する基礎的整理」：上行文書の構造と、前後の時代の書式との関連を考察した。漢検漢字文化研究奨励賞佳作（公益財団法人日本漢字能力検定協会）受賞。

角谷常子「長沙五一広場出土の君教簡・牘」：地方行政における案件処理の過程を示す「君教簡」「君教牘」について、五一簡と、居延漢簡・三国呉簡等との比較から位置づけを

検討した。

章瀟逸「後漢中期官文書簡の基礎的研究―長沙五一広場東漢簡牘を中心に―」：公文書について、上行文書・下行文書・平行文書を集成・整理して、各種文書の書式や、特徴的な文書用語について考察した。

五一広場東漢簡牘研究会（飯田祥子）「長沙五一広場東漢簡牘訳注稿　第一層（上）・解題」：出土層、形状・状態、記載内容、資料群としての性格に関する知見、とりわけその「かたより」を指摘した。

飯田祥子「五一広場東漢簡牘の公文書における竹簡の使用状況」：竹簡公文書の発信者名を網羅的に整理し、県廷とするものが大部分を占めることを明らかにした。当該資料は県廷遺構出土とされ、発信者と廃棄地が一致することになるため、発信された正本ではなく、発信者のもとに留められた「控え」である。書写材料は形状においても、用途によって使い分けられたと考えられる。

(2)後漢時代史の理解：五一簡にもとづき、後漢時代を理解する論稿を得た。

①後漢中期の政治・制度・社会：五一簡の記載内容を、『後漢書』等の歴史書の記述との関連からとらえ、政治や制度、社会のあり方を再検討した。同時代史料にもとづき、伝世文献の認識を相対化する個別研究である。出土文字行政文書資料は、特定の官府・地域に由来するため、限定的な性質を持つものが多く、中央の政治動向と関連付けて理解されがたい傾向があった。五一簡が民政に関わるものであるという性質を活かし、後漢中期における政治課題等を検討する上で、当該史料を活用することができた。

飯田祥子「五一広場東漢簡牘にみる後漢中期の人の移動と管理」：臨湘県の管轄内には移動人口が少なくないことと、県による管理体制、および中央の政策との関わり示した。

章瀟逸「漢代賊捕掾考」：県において治安をになう属吏である「賊捕掾」について性格・位置づけを明らかにした。

飯田祥子「後漢中期の地方統治姿勢―五一広場東漢簡牘を手がかりとして―」：五一簡には県の吏の業務に対して郡（上級行政機構）が介入するさまがみられることを示し、『後漢書』にみえる中央による統治の姿勢を背景とすることを明らかにした。

②中国古代・中世史の中の後漢中期：五一簡の読解に関連して、中国の古代から中世への転換の中で後漢の独自性を考察する成果を得た。

鷲尾祐子「長沙における居民管理制度の変遷―漢から三国呉までの里―」：民の管理単位の変遷について、五一簡、及び秦・前漢期の律令等、三国時代の簿籍に基づいて論じた。

飯田祥子「書評伊藤敏雄・関尾史郎編『後漢・魏晋簡牘の世界』」：後漢時代から西晋時代の簡牘資料に関する研究プロジェクトの成果である論文集の書評である。

飯田祥子『漢新時代の地域統治と政権交替』：前漢後半期から後漢時代に関する、中央集権的広領域国家の構造と成員にかかわる単行論文を再編成した単著である。

飯田祥子「書評阿部幸信『漢代の天下秩序と国家構造』」：中国古代国家の対外認識、国内秩序に関する著作の書評である。

角谷常子「中国古代官文書中敬辞的変遷―従里耶秦簡・西北漢簡・五一広場東漢簡所見」：秦から後漢時代までの官文書の中の敬語とその変化から官吏の人間関係の変化を考察する。

本研究は、後漢中期の出土行政文書である五一簡の読解を通じて、中国史の転換期である後漢時代を理解する成果を得てきた。**(1)五一簡の理解**に関わる成果は、研究の基礎となる史料自体を理解するものである。**(1)-①史料読解**の訳注稿は、中国古代における大規模な行政文書史料群を平易な日本語に訳出するものであり、かつオープンアクセスを実現したという点でも過去に例をみない。読解の結果、前後の時代の文書との一定の共通性と、少なくない制度上の差異が明らかになっている。差異が何に起因し、どのように継承、あるいは改変されてゆくのかを検討する必要があるが、その手がかりは**(1)-②史料研究**の文書行政制度に関する成果から得ている。**(1)-①史料読解**の輪読を継続して、理解を深める必要がある。**(2)後漢時代史の理解**は、行政の末端で作成された文書から後漢中期の政治や社会、そして古代から中世への変化を探究する試みである。**①後漢中期の政治・制度・社会**に関する成果によれば、当該時期において、中央政府の地方に対する規制力は依然として大きいと考えられる。また在地社会は高い流動性を示しているが、それも中央の政策の影響下にあり、地方官府は在地社会に対する管理統制を一定程度行っていることを明らかにした。一方で、研究開始当初には活発であるだろうと予想されていた有力者層の活動のありさまは、本研究の成果からはつかめておらず、それが史料の性格によるのか、他の要因が想定されるのかは今後の課題となる。また**(2)- ②中国古代中世史の中の後漢中期**の成果を基礎として、統一国家体制の変質過程を解明することが期待される。

〈文献〉

長沙市文物考古研究所等編：『長沙五一広場東漢簡牘（選釈）（壱）（弐）（叁）（肆）（伍）（陸）（柒）（捌）』（中西書局、二〇一五・二〇一八・二〇一九・二〇二〇・二〇二三年）

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計37件（うち査読付論文　13件／うち国際共著　3件／うちオープンアクセス　27件）

１．著者名 飯田祥子	４．巻 81-1
２．論文標題 五一広場東漢簡牘にみる後漢中期の人の移動と管理	５．発行年 2022年
３．雑誌名 東洋史研究	６．最初と最後の頁 34-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 飯田祥子	４．巻 23
２．論文標題 （書評）伊藤敏雄・関尾史郎編『後漢・魏晋簡牘の世界』	５．発行年 2022年
３．雑誌名 日本秦漢史研究	６．最初と最後の頁 196-208
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 鷲尾祐子	４．巻 81-2
２．論文標題 長沙における居民管理制度の変遷―漢から三国呉までの里―	５．発行年 2022年
３．雑誌名 東洋史研究	６．最初と最後の頁 1-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 鷲尾祐子	４．巻 -
２．論文標題 走馬楼呉簡吏民簿諸類型の比較検討	５．発行年 2022年
３．雑誌名 東京外国語大学アジアアフリカ研究所研究課題「中国古代簡牘の横断領域的研究」ホームページ http://www.aa.tufs.ac.jp/users/Ejina/note/note45(Washio).html	６．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 鷲尾祐子	4．巻 32
2．論文標題 （書評）大澤正昭『妻と娘の唐宋時代　史料に語らせよう』	5．発行年 2023年
3．雑誌名 女性史学	6．最初と最後の頁 21-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 鷲尾祐子	4．巻 131-10
2．論文標題 （書評）多田麻希子著『秦漢時代の家族と国家』	5．発行年 2022年
3．雑誌名 史学雑誌	6．最初と最後の頁 72-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 五一廣場東漢簡牘研究會	4．巻 -
2．論文標題 長沙五一廣場東漢簡牘譯注稿（七）暫定版	5．発行年 2022年
3．雑誌名 HP五一広場東漢簡牘研究会https://goitinokai.jimdofree.com/	6．最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 五一廣場東漢簡牘研究會	4．巻 -
2．論文標題 長沙五一廣場東漢簡牘譯注稿（八）暫定版	5．発行年 2023年
3．雑誌名 HP五一広場東漢簡牘研究会https://goitinokai.jimdofree.com/	6．最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 飯田祥子	4．巻 12
2．論文標題 五一広場東漢簡牘の上行文書に関する基礎的整理	5．発行年 2022年
3．雑誌名 漢字文化研究	6．最初と最後の頁 7-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 五一廣場東漢簡牘研究會	4．巻 -
2．論文標題 長沙五一廣場東漢簡牘譯注稿（五）暫定版	5．発行年 2021年
3．雑誌名 HP五一広場東漢簡牘研究会https://goitinokai.jimdofree.com/	6．最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 五一廣場東漢簡牘研究會	4．巻 -
2．論文標題 長沙五一廣場東漢簡牘譯注稿（六）暫定版	5．発行年 2021年
3．雑誌名 HP五一広場東漢簡牘研究会https://goitinokai.jimdofree.com/	6．最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 飯田祥子	4．巻 151・152
2．論文標題 五一広場東漢簡牘の上行文書に関する基礎的整理	5．発行年 2021年
3．雑誌名 龍谷史壇	6．最初と最後の頁 159-187
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 五一廣場東漢簡牘研究會	4．巻 -
2．論文標題 長沙五一廣場東漢簡牘譯注稿（一）暫定版	5．発行年 2020年
3．雑誌名 HP五一広場東漢簡牘研究会https://goitinokai.jimdofree.com/	6．最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 五一廣場東漢簡牘研究會	4．巻 -
2．論文標題 長沙五一廣場東漢簡牘譯注稿（二）暫定版	5．発行年 2020年
3．雑誌名 HP五一広場東漢簡牘研究会https://goitinokai.jimdofree.com/	6．最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 五一廣場東漢簡牘研究會	4．巻 -
2．論文標題 長沙五一廣場東漢簡牘譯注稿（三）暫定版	5．発行年 2020年
3．雑誌名 HP五一広場東漢簡牘研究会https://goitinokai.jimdofree.com/	6．最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 五一廣場東漢簡牘研究會	4．巻 -
2．論文標題 長沙五一廣場東漢簡牘譯注稿（四）暫定版	5．発行年 2021年
3．雑誌名 HP五一広場東漢簡牘研究会https://goitinokai.jimdofree.com/	6．最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 飯田祥子	4．巻 -
2．論文標題 「五一廣場東漢簡牘③200-2、③200-5平行文書冊書復元、及び關連簡に關する覚書」	5．発行年 2021年
3．雑誌名 HP五一広場東漢簡牘研究会https://goitinokai.jimdofree.com/	6．最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 飯田祥子	4．巻 150
2．論文標題 『長沙五一広場東漢簡牘（壱）（弐）』―後二世紀初、中国長沙における火葬事例の紹介を兼ねて―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 龍谷史壇	6．最初と最後の頁 69-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 飯田祥子	4．巻 20
2．論文標題 劉秀の列侯―初期後漢王朝の人的構成	5．発行年 2019年
3．雑誌名 日本秦漢史研究	6．最初と最後の頁 85-116
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 飯田祥子	4．巻 92･93合併号
2．論文標題 建武王公考	5．発行年 2020年
3．雑誌名 東洋史苑	6．最初と最後の頁 33-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 角谷常子	４．巻 38
２．論文標題 長沙五一広場出土の君教簡・牘	５．発行年 2021年
３．雑誌名 奈良史学	６．最初と最後の頁 42-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 鷲尾祐子	４．巻 -
２．論文標題 走馬楼後漢吏民簿の編製時期について	５．発行年 2020年
３．雑誌名 伊藤敏雄・関尾史郎編『後漢・魏晋簡牘の世界』汲古書院	６．最初と最後の頁 69-97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 飯田祥子	４．巻 -
２．論文標題 後漢後期・末期の西北辺境漢族社会―韓遂の生涯をてがかりとして―	５．発行年 2019年
３．雑誌名 髙村武幸・廣瀬薫雄・渡邉英幸編『周縁領域からみた秦漢帝国２』 六一書房	６．最初と最後の頁 91-116
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 角谷常子	４．巻 11
２．論文標題 中国古代官文書中敬辞的変遷―従里耶秦簡・西北漢簡・五一広場東漢簡所見	５．発行年 2023年
３．雑誌名 周東平・朱騰主編『法律史譯評』中西書局	６．最初と最後の頁 9-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 飯田祥子	4．巻 75-1
2．論文標題 後漢中期の地方統治姿勢 ―五一広場東漢簡牘を手がかりとして―	5．発行年 2023年
3．雑誌名 古代文化	6．最初と最後の頁 40-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 飯田 祥子	4．巻 884
2．論文標題 書評 阿部幸信著『漢代の天下秩序と国家構造』	5．発行年 2023年
3．雑誌名 歴史評論	6．最初と最後の頁 80-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 五一廣場東漢簡牘研究會(飯田祥子，章瀟逸，角谷常子，藤本航輔，鷲尾祐子)	4．巻 687
2．論文標題 長沙五一廣場東漢簡牘譯注稿 第一層上（一～七四簡）	5．発行年 2024年
3．雑誌名 立命館文學	6．最初と最後の頁 21-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 五一廣場東漢簡牘研究會(飯田祥子，章瀟逸，角谷常子，藤本航輔，鷲尾祐子)	4．巻 688
2．論文標題 長沙五一廣場東漢簡牘譯注稿 第一層 中 （八〇～一〇〇＋一〇一＋一〇二簡）	5．発行年 2024年
3．雑誌名 立命館文學	6．最初と最後の頁 53-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 五一廣場東漢簡牘研究會(飯田祥子，章瀟逸，角谷常子，藤本航輔，鷲尾祐子)	4．巻 689
2．論文標題 長沙五一廣場東漢簡牘譯注稿 第一層　下（一〇三～一二九簡）	5．発行年 2024年
3．雑誌名 立命館文學	6．最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 五一廣場東漢簡牘研究會	4．巻 -
2．論文標題 長沙五一廣場東漢簡牘譯注稿（九）暫定版	5．発行年 2023年
3．雑誌名 HP五一広場東漢簡牘研究会https://goitinokai.jimdofree.com/	6．最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 五一廣場東漢簡牘研究會	4．巻 -
2．論文標題 長沙五一廣場東漢簡牘譯注稿（一〇）暫定版	5．発行年 2023年
3．雑誌名 HP五一広場東漢簡牘研究会https://goitinokai.jimdofree.com/	6．最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 五一廣場東漢簡牘研究會	4．巻 -
2．論文標題 長沙五一廣場東漢簡牘譯注稿（一一）暫定版	5．発行年 2024年
3．雑誌名 HP五一広場東漢簡牘研究会https://goitinokai.jimdofree.com/	6．最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 鷲尾祐子	4．巻 -
2．論文標題 走馬楼呉簡吏民簿基本情報修正稿	5．発行年 2023年
3．雑誌名 東京外国語大学アジアアフリカ研究所研究課題「中国古代簡牘の横断領域的研究」ホームページ http://www.aa.tufs.ac.jp/users/Ejina/note/note46(Washio).html	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 鷲尾祐子	4．巻 33
2．論文標題 三世紀長沙における女性のライフサイクル	5．発行年 2023年
3．雑誌名 女性史学	6．最初と最後の頁 41-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 章瀟逸	4．巻 19
2．論文標題 後漢中期官文書簡の基礎的研究究―長沙五一廣場東漢簡牘を中心に―	5．発行年 2022年
3．雑誌名 （京都大学大学院人間・環境学研究科）歴史文化社会論講座紀要	6．最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 章瀟逸	4．巻 20
2．論文標題 漢代賊捕掾考	5．発行年 2023年
3．雑誌名 （京都大学大学院人間・環境学研究科）歴史文化社会論講座紀要	6．最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 飯田祥子	４．巻 106-3
２．論文標題 五一広場東漢簡牘の公文書における竹簡の使用状況	５．発行年 2024年
３．雑誌名 東洋学報	６．最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計6件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 飯田祥子
２．発表標題 後漢中期の地方統治姿勢
３．学会等名 中国古代簡牘の横断領域的研究
４．発表年 2022年

１．発表者名 飯田祥子
２．発表標題 五一廣場東漢簡牘竹簡文書の整理
３．学会等名 中国古代簡牘の横断領域的研究
４．発表年 2023年

１．発表者名 鷲尾祐子
２．発表標題 三世紀長沙における女性のライフサイクル
３．学会等名 女性史総合研究会
４．発表年 2022年

１．発表者名 角谷常子
２．発表標題 里耶秦簡における官職名の非表示
３．学会等名 AA研共同利用・共同研究課題 秦代地方県庁の日常に肉薄する―中国古代簡牘の横断領域的研究(４)
４．発表年 2022年

１．発表者名 飯田祥子
２．発表標題 五一広場東漢簡牘にみる人の移動と管理
３．学会等名 AA研共同利用・共同研究課題 秦代地方県庁の日常に肉薄する―中国古代簡牘の横断領域的研究(４)
４．発表年 2021年

１．発表者名 章瀟逸
２．発表標題 秦漢官文書用語”言……有書”考
３．学会等名 戦国秦漢簡牘在線研読（国際学会）
４．発表年 2023年

〔図書〕　計2件

１．著者名 飯田　祥子	４．発行年 2023年
２．出版社 汲古書院	５．総ページ数 510
３．書名 汲古叢書178　漢新時代の地域統治と政権交替	

１．著者名 髙村武幸・廣瀬薫雄・渡邉英幸　青木俊介・飯田祥子・片野竜太郎・鈴木直美・森谷一樹・鷲尾祐子	４．発行年 2019年
２．出版社 六一書房	５．総ページ数 352
３．書名 周縁領域からみた秦漢帝国2	

〔産業財産権〕

〔その他〕

五一広場東漢簡牘研究会
https://goitinokai.jimdofree.com/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	角谷　常子 (Sumiya Tsuneko) (00280032)	龍谷大学・文学部・教授 (34603)	
研究分担者	鷲尾　祐子 (Washio Yuko) (60642345)	立命館大学・文学部・非常勤講師 (34315)	
研究分担者	髙村　武幸 (Takamura Takeyuki) (90571547)	明治大学・文学部・専任教授 (32682)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	章　瀟逸 (Zhang Xiaoyi)	武漢大学・簡帛研究センター・PD研究員	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
中国	武漢大学簡帛研究センター			